

視点

宝塚歌劇 100周年

レゴール会長兼社長

大坪 清



2014年4月5日の土曜日、

宝塚歌劇100周年記念式典が兵庫県宝塚市の宝塚大劇場で開催された。まずもって関係者各位にお祝いを申しあげたい。ビジネスの世界に長年携わってきたので、歌劇のような芸術にはやや疎かったが、孫娘が宝塚音楽学校に入学して以来、宝塚歌劇に興味を持つようになった。

安倍政権になって日本の教育制度を見直し始めているが、それにはまず宝塚音楽学校の教育方法を参考にするのも一案ではなかろうか。

同校は予科1年、本科1年の2年制で、礼儀、作法をはじめ、今

教育で最も必要とされる道徳、修身、致知、格物を丁寧に教育してくれる。

道徳は言うまでもないが、修身致知、格物は儒教の古典『大学』にある言葉だ。世の中の平安を望もつとすれば8つの段階が必要だと説いている。それが格物、致知、誠意、正心、修身、齐家、治国、平天下である。

格物とは、物をよく見て観察し、その本質を正しく理解することであり、致知とは、知識が深まり知恵が磨きあげられることである。そつして初めて誠の心(誠意)が生まれ、心を正す(正心)ことができる。

それが身を修めようとする者が持つべき基本であり、修身が身についてこそ家の中も互いに仲良く暮らせるようになる(齐家)。それらが揃ってこそ正しく国が治まり、世の中が平安になるといって

とだ。
戦後、個を尊重する教育にやや偏り過ぎたきらいがある。お陰で自分が一番で、自分の生活の利益しか省みない風潮が顕著であることは寂しい限りだ。

宝塚音楽学校では、音楽や舞踊などの芸術、芸能分野は言うまでもなく、しつけの面でも厳しく鍛えられる。卒業後はほぼ全員が歌劇団に配属されるが、その2年間の学校生活を通じて長幼の序を守り、規律正しい生活が自然に身についてくる。

阪急電鉄の創業者である小林三氏が100年前に興じたこの歌劇団も、今では花組、月組、雪組、星組、宙(そら)組の5つの組による約400人の歌劇団員により

構成され、年間1300回以上の公演を続けており、賞賛に値すると思う。

あの華やかで、鍛え抜かれた歌唱とダンスに彩られた素晴らしいステージも、それぞれの生徒たちに培われた、凜とした矜持に裏打ちされていると感じるのは私だけであろうか。

もちろん誰もがスターになれるわけではないが、音楽学校で過ごした2年間と其後の歌劇団での生活は、本人たちにとって一生忘れることができない掛け替えのない宝物となることだろう。それは、与えられた役割、時間に一生懸命取り組んだ者だけが得る特権である。

経済団体でも宝塚後援会をつくり、タカラジェンヌを応援しているが、「清く、正しく、美しく」をモットーとしている宝塚歌劇団のますますの発展を、日本国内だけに限らず、世界に広めてほしいものである。